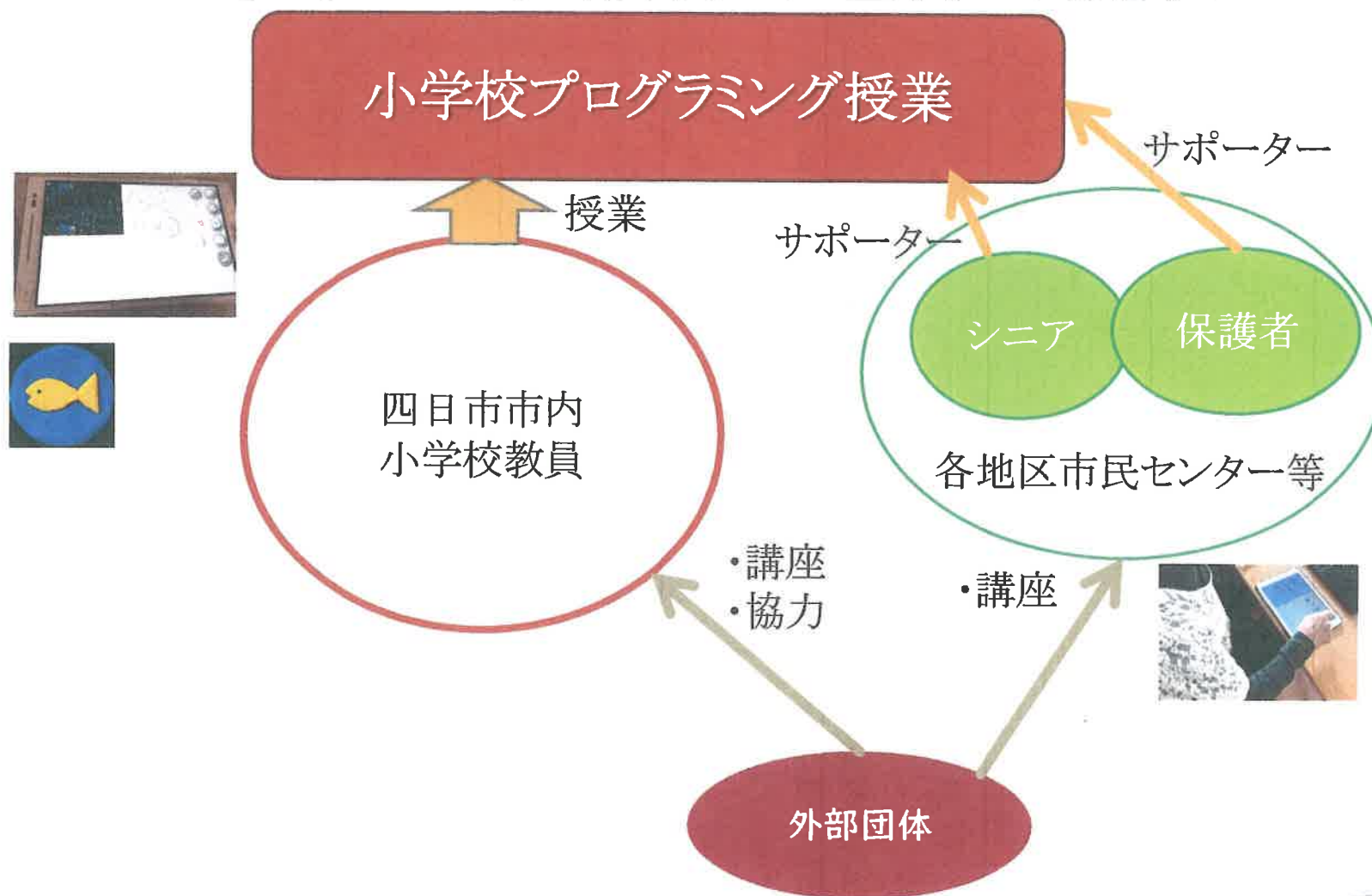


# プログラミング教育の全体の流れ

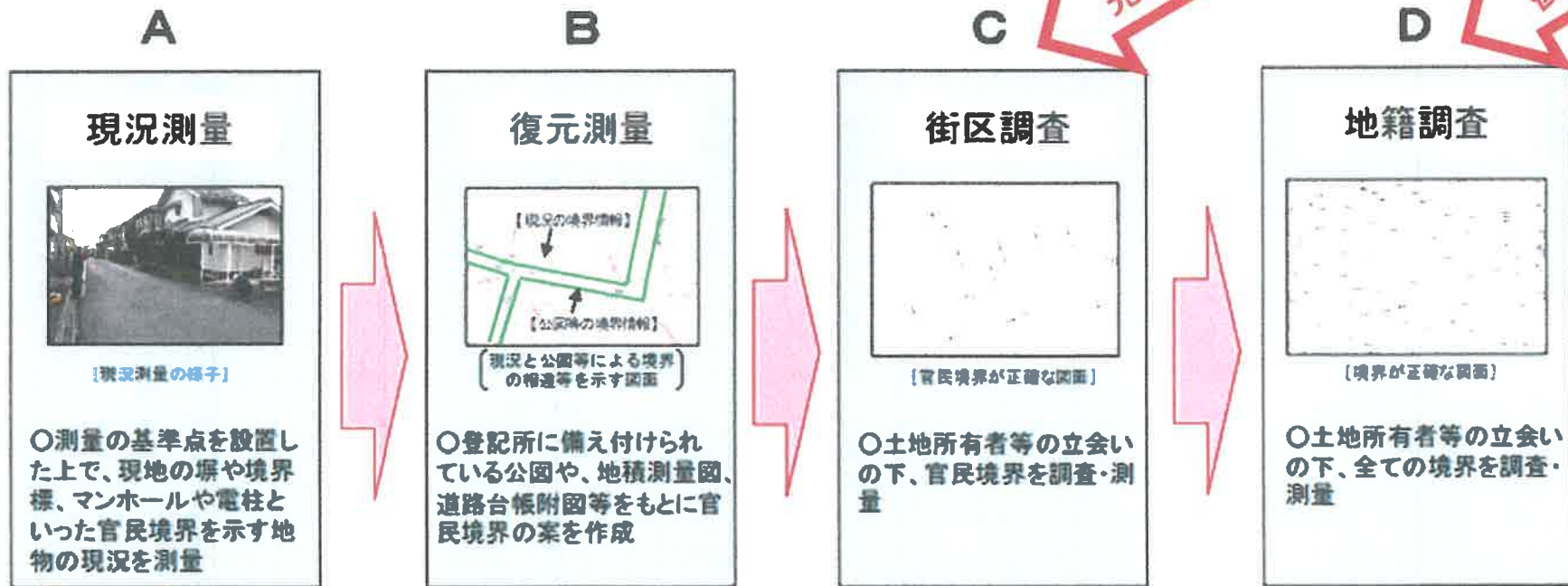


### 3-(1) 地域課題に即応した段階的な地籍整備①



- 南海トラフ地震による津波浸水想定地域等においては、事前防災対策の観点から、より迅速な調査の実施が次期計画での大きな課題。土地所有者等の立会いの下、民境界まで調査することを基本とする現行手法では、調査期間や人的・予算的な面から十分な進捗を図ることは困難と想定。
- そこで、このような地域では、地域課題への対応として最低限必要とされる境界情報を対象地域全域で迅速に整備した上で、地域の中での緊急度や重要度(例:想定被害の大小)に応じて、優先順位をつけながら境界情報の密度を段階的に高めていく調査手法が必要ではないか。

#### <都市部における段階的整備のイメージ>



### 3-(2) 地域課題に即応した段階的な地籍整備 2

- 段階的な地籍整備は、地域課題への対応として最低限必要とされる境界情報の水準等を踏まえた上で、効率的かつ効果的な地籍整備の手法である場合に導入すべきではないか。
- 特に進捗が遅れている都市部や山村部を中心に、段階的な地籍整備の導入が可能な地域としてどのような場所が考えられるか。

#### 社会資本整備や都市開発等が見込まれる地域

公共・民間事業等における境界確認の円滑化という点では、(少なくとも官民境界について)土地所有者等の立会による境界確認がなされていることで一定の効果が見られるのではないかと考えられる。

また、筆界推定線を復元した復元測量図を整備しておくことで、後続事業の境界確認の円滑化等につながるのであれば、復元測量を早急に地域全域で行うことも考えられるのではないかと考えられる。

#### 森林施業等が見込まれる地域

森林施業等の円滑化という点では、施業区域などある程度まとまった範囲の外周の境界が明らかとなっていることで一定の効果が見られるのではないかと考えられる。

一方、早急に土地所有者や現地精通者の境界に関する認識(人証)を調査することが必要であることや新技術を活用した調査手法とのマッチングが良いことから、調査手法の効率化による地籍整備を目指すべきではないかと考えられる。

#### 大規模災害が想定される地域

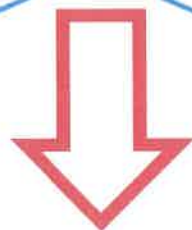
復旧・復興事業における境界確認の円滑化という点では、(少なくとも官民境界について)土地所有者等の立会による境界確認がなされていることで一定の効果が見られるのではないかと考えられる。

緊急性を重視するのであれば、復旧計画策定の円滑化等につながる現況測量ないし復元測量を早急に地域全域で行うことも考えられるのではないかと考えられる。

注目

市有財産の確実な  
保全・活用

段階的・効率的な  
地籍調査



- 官民境界の先行調査 その後、民々境界  
(道路・水路・行政財産・普通財産…市民共有の財産)
- 災害のおそれのある地域の官民境界先行調査  
(浸水・土砂災害・津波等)  
(国道1号東に限定せず、全市域の危険区域を先行)